

保育施設周辺の音環境と住民の意識に関する調査研究

片岡, 寛子

<https://hdl.handle.net/2324/4784628>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名 : 片岡寛子

論 文 名 : 保育施設周辺の音環境と住民の意識に関する調査研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

保育施設が不足している現状を改善するために施設の新設が求められているが、建設予定地周辺の住民の反対により建設を断念せざるをえない事例がある。住民が保育施設の新設に不安を感じる理由の一つに音の問題がある。実際に保育施設からどのような音が生じているのであろうか。保育施設で生じる音の特徴を把握し、どのような音に住民の意識が向きがちなのかが分かれば、保育施設の音に関連する問題について対策を講じることができる。さらに、保育施設新設に否定的な住民がどのような背景を持つのか、またなぜ否定的な意見を持つに至ったのかを知ることも重要である。本論文ではこれらの点を明らかにすることを目的とした。

まず1章では、保育施設が不足している現状とその原因、保育施設内外の音環境について検討した先行研究などを概観するとともに、保育施設と近隣住民の間で起きた音に起因したトラブルとその対策に関する事例を紹介した上で、本研究の目的を述べた。

2章では、福岡市と佐賀市の二つの保育施設を対象として、その周辺の音環境の全体的傾向を把握するために行った、保育施設で生じる音の実測調査、及び音環境や保育施設の新設に対する周辺住民の意識を調べたアンケート調査について述べた。年間を通じた実測調査から、対象施設で生じた主要な音のA特性時間平均音圧レベル (L_{Aeq}) と音源毎の時間割合を把握した。保育施設の音に対する近隣住民の意識調査では、近隣住民が主に聴取している音の中で、好感のもてる音として「幼児の声」「運動会の音」が挙げられた一方で、「幼児の声」は不快との回答も見られた。その他に、不快な音には「送迎の車」「保育士の声」なども挙げられた。保育施設で行われる公開行事への参加経験や参加意思のある回答者は、そうでない回答者よりも保育施設の新設に肯定的であることが分かった。実測調査と意識調査の対応から、保育施設から聞こえる音の印象は音の物理的特徴と対応しないことが示された。

保育施設の音を日常的に聞いている住民と普段ほとんど耳にしない住民で、保育施設新設の賛否や音環境への意識に違いがあるのだろうか。3章では、この点検討するためのアンケート調査について述べた。保育施設の有無、幹線道路や鉄道などの騒音源の有無を考慮し、福岡市内の4地域の住民を対象とした。全体的な傾向として、 L_{Aeq} の代表値が高い地域ほど音環境の満足度が低くなる傾向が見られた。保育施設新設への賛否の回答では、全地域で賛成が約半数の割合を占め、反対は10%未満となった。このことから、保育施設新設への賛否は、保育施設の有無や L_{Aeq} が高いか低いといった周辺環境に依らないと考えられた。保育施設新設への賛否については、家族が現在保育施設に在籍している回答者、保育施設で実施される公開行事への参加意思がある回答者は賛成する傾向が見られた。参加意思のある回答者が賛成する傾向は、保育施設がない地域でも確認された。また、騒音に対する感受性が高い回答者ほど、新設に否定的であることが分かった。

保育施設新設に対する意見には回答者の社会経済的な背景も関係するのではないかという仮説のも

と、地価公示額がこれまでの調査対象地域と異なる福岡市内の2地域を選定し、音環境に対する意識や保育施設新設への賛否などを尋ねるアンケート調査を行った。4章ではこの詳細について述べた。結果として、他の地域と併せて分析したところ、 L_{Aeq} が高い地域ほど音環境の満足度は低くなる傾向が確認された。前章では、保育施設新設に賛成の回答が約半数の割合を占めていたが、本章の対象地域ではやや低くなった。反対の回答は、前章の対象地域と同様に1割未満であった。保育施設新設への賛否の意見と公開行事への参加意思、騒音感受性との関連は、ここまで得られた結果と同様であった。

5章では、得られたデータに対する包括的な分析について述べた。保育施設の音が聞こえるか否かは音環境の満足度と関連がないことが示唆された。保育施設新設への賛否については、一部地域間で賛否に違いがあるものの、全体的には賛成する傾向が見られた。保育施設新設の賛否に影響を及ぼす要因の分析をロジスティック回帰分析により行った。反対意見の発生確率を目的変数とした分析を行ったところ、回答者の「性別」「騒音感受性」「公開行事への参加意思」が統計的に有意な変数と認められた。女性、騒音感受性が高い住民、公開行事への参加意思がない住民は保育施設の新設に否定的な意見を持つと考えられる。

得られた結果を踏まえ、保育施設が周辺住民に受け入れられやすくなるための手立てとして、公開行事を含めた施設の運営方針について住民に十分説明することに加え、住民が関心を持つような公開行事を企画し、地域との交流を図ることが有効であることを述べた。本研究の成果は、保育施設の新設を進める上で有効と思われるが、既設の保育施設で起きている音に起因した問題を解決する上でも役立つと考える。